

# 日本から世界に通用するベンチャーを

日本テクノロジージャーベンチャーパートナーズ (NTVP)

村口和幸氏

**フロンティア**  
うまき、いかに  
なりの、  
が列  
むむ  
専

村口氏は、1998年に野村証券系のベンチャーキャピタル会社であるジャフコから独立し、個人でファンドを作り運営している。ジャフコからの独立を決めたのは、昨年3月のイストラエル行きが大きく影響している。イストラエルではベンチャーキャピタルの歴史がまだ浅いにもかかわらず、多数の個人ベンチャーキャピタリストが、ごく当たり前のように何本ものプロシエクトをプロデュースしている。村口氏は「このままではダメだ」と強く思い、帰国して早々に辞表を提出した。

もともと、ベンチャーキャピタルとは基金のことを指す。「ファンド」とも呼ばれ、出資者のお金を基金化するものだ。日本の場合は、ベンチャーキャピタル会社が運用する投資事業組合がいくつか存在し、それらを組み合わせて投資する形式を取っている。だれが責任者なのか、人事異動はどうするのか、成功報酬はどうやって分けるかなど、抜本的なあいまいさがある。



インフォテリアの取締役財務経理顧問とアイ・アンド・エフの取締役財務取締役を兼任している。

村口氏のベンチャーキャピタルの仕組みはいたってシンプルだ。村口氏がベンチャーキャピタリストであり、責任者であるからだ。そのため、村口氏に、投資先の取締役として、プロシエクトが成功するための戦略も立てる。同氏が出資するXML専業ベンダーであるインフォテリアにおいても、取締役として株式会社の下準備を行っている。「起業家が金を借りてリスクの大きいことをやるのではなく、投資家の投資資金で企業運営を行い、リスクは投資家が負うべきだ」と同氏は語る。

# 金も出せば口もだす

ネットベンチャーを育成するベンチャーキャピタルとエンジェル

## 純粋に個人の資産からベンチャーに出資するエンジェル

堀場製作所取締役会長 医学博士 堀場雅夫氏

エンジェルとは、個人でファンドに出資をする人、またはファンドを飛び越えて投資を行う人のことをいう。京都にある堀場製作所は、1953年にエンジェルの出資によって設立された。戦後の無の状態から堀場雅夫氏が立ち上げ、現在に至っている。今では、日本では数少ないエンジェルの一人だ。



「エンジェルの存在なしに今の自分あり得ない。堀場製作所は、エンジェルが多量に存在した」と、堀場氏は当時を振り返る。

**「ベンチャー」**  
とが重要だ。  
**「本に」**  
業家が少ない原因は、偏差値教育にあると見ている。有名大学を出て一流企業に入るか高級官僚になるというのが、今までのサクセスストーリー。一方、ベンチャーを興す人は、「落ちこぼれ」という認識が強く、出資する人にも「変わり者」のレッ

ケルが貼られていたという。また、日本にエンジェルが少ない理由は、投資の規制と税制に問題があるとする。日本の税制は、儲けたときはガッポリ取って、損したときは必要経費を認めない。税制によって本当の金持ちが少なくなってしまう。堀場氏は、「これだけ取られたら、いくら優秀な若者が奮起しても、お金を出そうという気持ちにはなれない」と語る。